

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	總務部報
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 201: 119-120
Issue date	1927-03-01
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8945
Right	

總務部報

種々差仕ヘノタメ總務部事務ヲ詳細ニ報告スルコトガ出來ヌヲ遺憾ニ思ヒマス。

然シ對七高問題應援費問題ニ就テハ他日何ラカノ方法ヲ以テ發表スル積リデス。次ニ本年度各部委員及ビ豫算案ヲ報告致シマス

總務委員 湯村 隆義(文二乙)

荒木 晃(理二甲一)

總務幹事

岩下 勝太郎(文二甲一)

村岡 不二雄(文二乙)

古川 洋二(文二乙)

赤司 學夫(理二甲一)

山崎 英雄(理二甲三)

岡田 國市(理二甲二)

上島 勝(理二乙)

辯論部

佐藤 滿男(文二甲一)

坂本 岩雄(文二甲二)

文藝部

長屋 肇(文二甲一)

犬養 孝(文二甲一)

松井 武夫(文二甲三)

劍道部

伊藤 京逸(理二乙)

基本積立金

七五六、一

柔道部

北里 勇三(理二甲二)

端艇建造積立金

七〇七、二〇

弓道部

鈴木 嘉道(理二甲一)

各部運動場修繕積立金

三〇〇、〇〇

野球部

土生 保(理二甲二)

合 計

一七六三、三一

庭球部

守永 吉明(理二甲二)

收入之部

九四五〇、〇〇

端艇部

廣岡 知男(文二甲二)

通常會員會費

九八〇、〇〇

水泳部

於保 不二雄(文二甲二)

新入生入會費

二八〇、〇〇

山岳部

船津 文吾(文二甲二)

一人ニツキ

七〇〇、〇〇

蹴球部

石橋 健一(文二乙)

名譽會員會費

一二〇、〇〇

陸上競技部

丸山 繁雄(文二甲一)

預金利子

一一二五、〇〇

若松 逸(文二甲二)

前年度繰越金

一五〇〇、〇〇

越智 恭二(理二甲一)

合 計

一八九、五五

正理二甲一

支出之部

一四〇、二一

綱道部

山口 進(理二甲二)

總會計所屬

三六六、〇八

無所屬會計

演說部

一五〇〇、〇〇

雜誌部

赤星 平馬(文二甲二)

雜誌部

一四〇、二一

綱道部

佐渡 道隆(理二甲一)

雜誌部

一四〇、二一

綱道部

永峯 千之(文二甲一)

雜誌部

一四〇、二一

綱道部

若松 逸(文二甲二)

雜誌部

一四〇、二一

綱道部

越智 恭二(理二甲一)

綱道部

一四〇、二一

綱道部

綱道部

綱道部

一四〇、二一

綱道部

綱道部

綱道部

一四〇、二一

綱道部

綱道部

綱道部

一四〇、二一

綱道部

綱道部

綱道部

一四〇、二一

綱道部

綱道部

綱道部

一四〇、二一

柔道部	〃	四〇〇、四五
野球部	〃	九三七、九四
庭球部	〃	八〇七、三〇
端艇部	〃	五二四、六〇
水泳部	〃	二五四、八二
山岳部	〃	二三三、九五
陸上競技部	〃	六一七、六〇
蹴球部	〃	二八七、六五
合 計		一一二五〇、〇〇
I 總會計所屬		
基本積立金		一七五、〇〇
端艇建造積立金		五〇〇、〇〇
各部遠征補助費	二一五四、八五	
片道汽車賃、宿泊料	一人一宿	
至二、五	辨當代一人一回	至三、五
端艇用ローラー代		一〇〇、〇〇
會計事務取扱費		六五、〇〇
石灰代		五〇、〇〇
テニスコート修繕費		二〇〇、〇〇
豫備金		二一六、二三
各部運動場修繕積立金		二〇〇、〇〇
合 計		三六六一、〇八
II 無所屬會計所屬		

運動會及ビ斷郊競走	六〇〇、〇〇
ボートレース	五五〇、〇〇
舊委員贈呈記念品	五〇、〇〇
對七高戰審判費	一五〇、〇〇
雜 費	一五〇、〇〇
合 計	一五〇〇、〇〇

山 岳 部 報

山岳部第二班

日本アルプス槍烏帽子縦走

班員 理三乙 田淵 稻藏

相賀 勇一

理二乙 保野 正之

「夏でも寒い木曾の御嶽さん」を中央線のあのトンネルにすつかり弱らされた眼で車窓からチラツト見た時の胸の高鳴り！それからの一週間私達には見るもの、聞くもの総てが天國のそれでした。據尻で以前學校の体操科に居られた西村先生と一緒にになりました。さすがに松本は山の都です。リュックと汗じみた上衣と焼けた顔と、それで

も誇らしい眼差の山の人達の都です。松本から島々へはまあこんな山の中に！と思はれる立派な電車があります。約四十分間、白い長い雪の溪を抱いた山々が走馬燈の様に移つて行きました。島々は清水屋に泊りました。島々はい、所ですれ。紋部をはいて「アイアイ。アリマスライナ」てな調子です。どうしても御維新以前ですれ。

七月十九日。起きて見たら雨ちやありませんか。昨日迄はあんなに上天氣が續いたのに！一高や學習院の連中があんなに大成功で下りて來てたのに！併し登ることになりました。所がものゝ半里も行く何んだか雲が切れて晴れさうです。すつかり喜んでトロの道を川に沿ふて行きました。大分山らしくなりました。この邊でなんとか秀綱の奥方が山を越へて逃げる途中心ない樵夫にやられた事があるそうです。それで村には癪病が絶えないとか。それを名所にしておく氣心は一す判斷に苦しみます。又降り出しました。酷留で休みました。東高工の生徒が一人で烏帽子から槍を越へて來てゐ